

20日 水曜

へブル

10:26 もし私たちが、真理の知識を受けた後、進んで罪にとどまり続けるなら、もはや罪のきよめのためにはいけにえは残されておらず、

10:27 ただ、さばきと、逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐れながら待つしかありません。

10:28 モーセの律法を拒否する者は、二人または三人の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死ぬこととなります。

10:29 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮る者は、いかに重い処罰に値するかが分かります。

10:30 私たちは、「復讐はわたしのもの、わたしが報復する。」また、「主は御民をさばかれる」と言われる方を知っています。

10:31 生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。

10:32 あなたがたは、光に照らされた後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こしなさい。

10:33 嘲られ、苦しい目にあわされ、見せ物にされたこともあれば、このような目にあつた人たちの同志となったこともあります。

10:34 あなたがたは、牢につながられている人々と苦しみをともし、また、自分たちにはもつとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われても、それを喜んで受け入れました。

10:35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。



10:36 あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。

10:37 「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。

10:38 わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」

10:39 しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

26節からは罪を犯し続けることの報いの恐ろしさが強調されています。モーセの律法によれば、「死刑に処せられる」というのですから、「契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか」というのです。最後に残された、あわれみゆえの救いの道をも拒否するなら、「生ける神の手の中に陥る」こととなります。救われたということは感謝以外の何ものでもありません。

初代教会では多くの迫害があり殉教がありました。それは永遠の命の本当の希望を確認するためであり、後世の私たちもそれを知るためです。また主を信じる本当の姿勢を明らかにするためであり、この世の利害とは違う次元のものであるということを示すためです。

そしてクリスチャンにはそのような信仰に生きた人々の霊的DNAが受け継がれてきたのです。ですから私たちも、永遠の希望をしっかりと持ちながら、そのために地上のあらゆることに動じることなく、永遠の希望を失わないようにする必要があります。

そしてこの希望のゆえに苦しみに会っている人（捕えられている）を思いやり、励ましあってゆく必要があります。「なんでこんな目にあうのか」と言う人には、主の深いご計画と勝利の希望を信じてあげて、それを宣言し、主にとりなすことです。

「信じていのちを保つ者」になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

